

子どもの発達における家庭の役割

日本発達心理学会では、研究の知見を広く社会に還元するため、一般公開型の研修会を行っています。第1回では「子どもの発達」と「家庭」の関係について取り上げます。家庭を取り巻く環境が変化し、家族の形が多様化していく中、2023年4月には、こども家庭庁が発足しました。いま改めて、発達と家庭の関係について考える時ではないでしょうか。様々な視点から子どもの発達における家庭の役割について考えて来られた講師を招き、皆さんと共に考えていきたいと思えます。

日時：12月23日（土）13:00～16:00

方法：オンライン開催（Zoomウェビナー）

参加費：無料

定員：先着500名

申し込み方法

右のリンク先のフォームから
事前参加申し込みをしてくだ
さい。



<https://jsdp.jp/contents/workshop-symposium/koukai2023.html>

秋田喜代美（学習院大学）

こども・家庭・地域の共育ち：こどもまんなか社会にむけて

こどもまんなか社会の実現が国の政策として動いています。この動向を解説しつつ、子どもと保護者・養育者との関わりの方質について、演者が関与してきた縦断研究プロジェクトの結果を交えてお話します。

根ヶ山光一（早稲田大学）

ヒト・家庭・アロマザリング：遠心性から考える

ヒトの子どもは家庭において、母親だけでなく多様な家族とモノによるアロマザリングシステムのなかで育ちますし、また家庭は外の豊かな世界に広く開かれています。それらを「遠心性」の視点から論じてみたいと思います。

日戸由刈（相模女子大学）

ライフスキルとレジリエンスを育む

幼少期から「ライフスキル」（身の周りのこと）に丁寧に取り組むことは、「レジリエンス」（折れない心）を育てることもつながります。身の回りのことへの取り組みが、どうしてレジリエンスの育ちにつながるのでしょうか。その理由についてお話します。